

お知らせ

第 10 回バイオセーフティシンポジウム開催案内

主催：日本バイオセーフティ学会

バイオセーフティシンポジウムテーマ

《 バイオセーフティを取り巻く環境 — ハードおよびソフトのマネジメント — 》

開 催 主 旨

動物実験を含む病原体等の研究や臨床検査、感染症対策における除染や医療現場、病原体取扱い施設設計、運用、維持など広範な分野でバイオセーフティ専門家が求められ、またその技量向上も必須のものとなってきています。

学会の実験室バイオセーフティ指針（第 2 版：2019 年 8 月 1 日）に基づくハードとソフトの講義と実習からなるカリキュラムにて「実験室バイオセーフティ専門家講習会」を実施し、専門家認定を行い、ハードおよびソフトのマネジメントを担える専門家の人材の育成に努めてきています。

今回は、バイオセーフティのおかれている環境について再認識し、バイオセーフティ専門家として、理解し、身につけ、適切に対応を行う際に必要な事項の内、特に建築・設備システムにおけるハードとソフトの包括的なマネジメントについて紹介します。

さらにバイオセーフティ専門家として、必須のバイオリスクマネジメントにかかわる教育・訓練についての紹介と積極的な討議を行っていきます。

日本バイオセーフティ学会は、本シンポジウムを含め、バイオセーフティ専門家の技量向上と関連情報の共有などを行い、バイオセーフティ全般の向上を図っていききたいと考えています。

開 催 内 容

- 1.開催日時：2023 年 3 月 1 日（水）13：00~17：30
- 2.開催場所：（一社）予防衛生協会（つくば）
- 3.開催方式：対面及び Web リモート方式（Zoom システム）

4.プログラム

13:00～13:05 開会挨拶 北林厚生理事長

13:05～13:10 シンポジウムの主旨説明 杉山和良 学術企画委員

座長 藤本浩二 (一社) 予防衛生協会

13:10～14:00 (50分) 建築・設備システムについて

- ・建築・設備システムにおけるバイオセーフティについて承知すべき事項の紹介
- ・設計図書に基づく保守(メンテナンス)事項の概要紹介
北林厚生((一社) 予防衛生協会・イカリ消毒(株))

14:00～14:20 (20分) 討議

休憩(14:20～14:30)

座長 田中 俊憲 沖縄科学技術大学院大学

14:30～15:20 (50分) 施設の運営とマネジメントについて

- ・リスク認知とリスクマネジメント
- ・緊急時対応
篠原克明(信州大学繊維学部)

15:20～15:40 (20分) 討議

休憩(15:40～16:00)

座長 井上 智 国立感染症研究所

16:00～16:40 (40分) 施設内におけるバイオリスクマネジメント教育・訓練

- ・教育・訓練の在り方
- ・バイオセーフティ管理者及びバイオセーフティ専門家の技量向上について
伊木繁雄(国立感染症研究所安全実験管理部)

16:40～17:00 (20分) 討議

休憩(17:00～17:10)

17:10～17:25 総合討論

17:25～17:30 閉会挨拶

5.講演概要

5-1. 北林厚生先生 (一社) 予防衛生協会・イカリ消毒(株)

本講演では、*バイオセーフティにおける建築・設備での承知すべき事項並びに建築・設備での保守メンテナンスに係る概要の2項目を主に紹介致す。

建築・設備では、コンタミネーション防止として、建築・設備として求められる機能や各種動線での対応も紹介する。

保守メンテナンスは、安全・安心に就き当初の機能を保全する基本的事項を、システムを中心に紹介する。

5-2. 篠原克明先生 信州大学繊維学部

本講演では、病原体取扱い時に起こりうる諸種のリスクについて考察し、その対応を検討する。

具体的には、病原体取扱い時における作業者の感染リスクを整理し、その対応策について考察する。病原体取扱い時には、その病原体の特徴や感染経路により適切な防護具の選定と着用および適切な物理的な封じ込め対策が重要である。

さらに、使用器具・機材や施設・設備の不具合に伴うリスクについて整理し、その対応策を検討する。施設・設備の不具合時には、病原体の取扱い環境、すなわち封じ込め性能の低下が懸念され、その状況におけるリスク認知およびリスク低減策や緊急時対応などについて考察する。

5-3. 伊木繁雄先生 国立感染症研究所 安全実験管理部

本講演では、病原体取扱施設におけるバイオリスクマネジメント技術を習得する上で欠かせない教育・訓練について、作業時や緊急時を含めたあらゆるリスクを迅速かつ的確に評価し、リスクに応じた行動や対策を実践できるようにするための方策とその在り方を考察する。また教育・訓練の役割を担うバイオセーフティ管理者やバイオセーフティ専門家にとっては、優れた教育・訓練技術の習得が極めて重要となることから、この技量を向上させるためのトレーニングについても考察する。

6.参加費

会員：3,000円 非会員：8,000円（参考：会員年会費 10,000円）

請求書、領収書ご入り用の方は、第10回シンポジウム事務局までご連絡ください。

6-1. 振込先

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：〇一九店（ゼロイチキュー店）

口座番号：当座 151869

口座名義：日本バイオセーフティ学会（ニホンバイオセーフティガクカイ）

振込手数料はご負担願います。また、参加者名が分かるようにお振り込み願います。

7.参加申込

事前に所定の**参加申込書**を用い申込願います(学会ウェブ「お知らせ」に掲載いたします)。

申込先：一般社団法人予防衛生協会内 第10回シンポジウム事務局 柴田宏昭 小野孝浩

Mail：jbsa-symp010@primate.or.jp TEL：029-828-6888 FAX：029-828-6891

8.その他

日本バイオセーフティ学会「実験室バイオセーフティガイドライン（第2版）」の販売

販売価格：会員：2,500円/冊 非会員：3,500円/冊

ご希望の方は、第10回シンポジウム事務局までご連絡ください。

会場案内図（予防衛生協会） <https://www.primate.or.jp/access>